

令和3年度第3回 名張市地域公共交通連携協議会 議事概要

日 時 令和3年12月3日（金）

午前10時00分より

場 所 美旗市民センター 中会議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

古谷 久人（薦原コミュニティバス運営委員会 会長）
深山 桂右（深山運送有限会社名張エフバス営業所 所長）
福本 房生（ほっとバス錦運営協議会 会長）
荻田 吉春（代理出席、緑が丘コミュニティバス運営協議会）
島田 光夫（代理出席、美旗地域コミュニティバス運営審議会）
杉本 公也（国津コミュニティバスあららぎ号運行協議会 会長）
平岡 祐一（三重交通株式会社伊賀営業所 所長）
橋本 智幸（株式会社メイハン 取締役部長）
谷本 浩司（名張市都市整備部 部長）

（2）オブザーバー

鈴木 博行（中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官）
滝川 晋（ほっとバス錦運営協議会）
福田 富彦（薦原コミュニティバス運営委員会）
藪井 喜巳（国津地区コミュニティバスあららぎ号運行協議会）
作田 久（三重交通株式会社伊賀営業所）

（3）事務局

都市整備部都市計画室3名

1. 開会

2. 議事

（1）令和2年度コミュニティバス事業評価及び令和3年度上半期利用状況について

（令和2年度事業評価について、資料に基づき事務局より説明）

<上半期の利用状況について、各運営主体の自己評価>

（ナッキー号）

事務局 ナッキー号の今年度の上半期の利用者数は、21,431人であり、昨年度の同時期と比べると204人の増加となりました。昨年度に比べ有料の利用者は増加し、免除の利用が減少しています。自己評価・所見としては、利用者数はコロナ禍以前のような利用状況には戻っていません。今後も感染者数の様子を見ながら、一度ナッキー号の利用から離れてしまった人の呼び戻しのため、公共交通の安全な利用を呼びかけ、利用促進に努めていきます。

（あららぎ号）

事務局 上半期の利用者数は1,031人でコロナ禍であるものの増加傾向にあります。自己評価・

所見として 利用者数は前年度比129人の増加となりました。4月から改正時刻表で運行している中、新しく停留所を設置した「夏見」、「木平集会所」の9月までの利用者は、それぞれ月平均延べ4.6人、8.8人であり当初の想定を下回る結果にはなりましたが、運行の見直しによる一定の成果が出ていると思われます。一定数の新規利用者はある一方で、固定客が高い割合を占めている状況のため、今後は運行形態等根本的な見直しも必要な状況であると考えます。

(ほっとバス錦)

委員 依然といたしましてバスを必要とする住民、乗っていただいている方は障害をお持ちの方や高齢の女性の方が主でありましたが、障害者の利用者数はほぼ変わっておりませんが、高齢者の女性の方は、年々高齢者の免許保持率が高くなってきて、一方で免許を返納をしてバスに乗りたくないという方も、詳しく調査はしていませんが、運転手さんの話等ではあまり見られないということがございます。こうしたことが、コロナ禍が終わっても即また昔のように復活するというのは望めないと思います。やはりこちらから仕向けていき、イベントや地域ぐるみの支援等を1人ひとりが地域で運営しているという認識をもって協力をお願いするわけですが、コロナも新たな変異株なども出ていますので、協議会としては、これをベースとして持続可能で永く運行するにはどうすればいいかということで、先ほども発表させていただいたように、運行委託の見直しを含めてしていきたいと思います。

(コモコモ号)

オブザーバー コモコモ号ですが、皆さんと同じように先月くらいに乗込みの調査をしました。その時に私と会長で乗込みましたが、本当に少なくてがっかりというか、0人の便もありました。ただ、実際に乗られた方を見てみると、「え、こんな使い方しているの」と、具体的には我々の今までの感覚だったら、地域から桔梗が丘駅へ、駅から各地域へ帰るといった想定しかしていませんでしたが、途中から乗って途中で降りる、それを往復で利用される、それがどうも日常的かなという方がおられました。こういう使われ方もしているのかと思いました。コモコモ号の場合は、西原のオークワという商業施設が場所を変えてオープンされています。そこへの乗込みをされたらと美旗さんからも話がありましたが、そこに乗込むとまず距離が延びると、時間もかかるということで躊躇しています。仮に増やしても、往復利用がほとんどない、というのは帰りの便がないからということで、行きの便も増やしても結局乗らないのではという悪循環になってしまいそうで、帰り便の有り様によっては利用者が増えたりもするのかと考えられますが、せっかくオープンしてくれているので、検討はしていきたいと思います。

(みどり号)

オブザーバー みどり号は、平成30年に桔梗が丘駅前の近鉄プラザが閉店し、この間3～10月まで店が休業しましたので、利用者が急落しています。その後、店舗がぎゅーとらに代わり、若干伸びていけるかなと思いましたが、今度はコロナで打撃を受けましてまた急降下してという経緯がございます。みどり号の場合は、目的がなければなかなかバスに乗っていただけません。要は買い物と通院です。近鉄プラザが閉店してからの半年間で何が起きたかということ、皆がそれぞれ買い物先を許容の範囲の中でほかの店舗に行くようになり、買い物先が多様化しました。当然近鉄プラザがあったころは、桔梗が丘駅前までの便が相当よかったです。閉店した半年の間に利用客がそれぞれの立場で買い物ルートを確立された。また、家の状況も、

そこに買い物施設がないので、娘が買い物に出る、おばあちゃんが乗っていくというようなことでお子さんの乗用車に便乗して買い物されるケースが大変増えてきました。今年に入ってもいろいろ策は講じていますが、どんどん下がっていき、平成30年からずっと前年割れが続いています。対策としては、バス停の寄せ植えを蔵持小学校とタイアップして、人権の花をバス停に作ったり、みどり号のホームページで案内もしております。ただ、どうしても下がり気味ですので、今後蔵持にホームセンターが開店する予定で、その店舗構内に停留所を持ってこれないかということで、相談中です。ぎゅーとらもやりたかったのですが、バスの総重量が駐車場の荷重容量に耐えられなかったのでぎゅーとらの場合は、武道館の前に停留所を作りました。現在、赤坂夏秋橋線が工事中ですが、あれができれば緑が丘から武道館、ぎゅーとら、ホームセンターを経由してマックスバリュまで、マックスバリュまで行けばスーパー、書籍、百均、色んなものがそろいますので、そこで買い物の買い回り性がよくなりますので、我々の思いとしては、できるだけ赤坂夏秋橋線を1日でも早く開通していただいて、バスのルートを変更して桔梗が丘駅に入っていくというのをここ2、3年のテーマとして何とかみどり号の復活を掲げて一丸となっていきたいと思っております。以上です。

(はたっこ号)

オブザーバー 今まで過去最低であった昨年度の同時期と比べましても利用者数3,225から2,727に約500人減少しております。運賃収入も476,000円から395,000円と75,000円の減少しており、依然厳しい状況にあります。ただ、本年度5月よりオークワ西原店に乗り入れを開始しましたが、6月から住民の認識をいただきまして、それから毎月30名以上必ず乗車されています。これは今まで桔梗が丘のぎゅーとらがなくなってどうかなと思っていましたが、乗り入れたことで買い物弱者への対応策としては効果があったかなと思います。ただ、現状の課題として乗込み調査をさせていただいた中ではたっこ号は8便午前4便、昼から4便とありますが、午前中は行きの便、午後からは帰りの便しかない、2ルートあるのでそういうふうにはしているのですが、利用される方に聞いてみると行く便はあっても帰る便までのタイムスパンが長いということで、わかってはいたのですがそこに手を入れようかと、現状で見ているのですが、午後の7、8便が桔梗が丘から出ていますが、利用頻度で言うとかかなり低いです。その時間帯をやりくりして、午前中に1便帰りの便を作り、午後からの便にも入れてみようかなと、検討しないとわかりませんが、どうやらそういう声が多いので、今後検討していきたいと思っております。以上です。

オブザーバー 一方通行で、行きはよいよい帰りは怖いということです。ただ、なぜその時間があくというのが、うちはメイハンに業務委託させていただいていますが、ドライバーさんの就業時間に対する休憩時間の関係も絡んできますので、それは私どもで勝手にできることではないので、メイハンとも協議させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会長 便数ですよね。便数を増やしてほしいという希望があると思いますが、限られた予算の中で色々工夫してやっていかざるを得ないので、今後もそういった細かい検討を進めていただかざるを得ないと思っておりますけれども、皆さんの方からご質問等ございましたら。それぞれの運営協議会さんの方で、それぞれの路線の日々の対策を考えられている部分があると思いますので、それに取り組んでいただければと思います。議事としては以上で、2番目のその他について、まず、錦生コミュニティバスほっとバス錦の運行事業者の変更について、事務局か

ら説明をお願いします。

3. その他

- ・錦生コミュニティバス「ほっとバス錦」運行事業者の変更について

(事務局より資料に基づき説明)

(ほっとバス錦運営協議会より補足)

委員 運賃収入が低迷してきました、これをベースとして、持続するにはどうすればいいのかということになりますと、支払いはほぼすべて委託料だけで、他にカットするところはないので、今お越しいただいていますが、大変お世話になって安全運転でしていただいているわけですが、背に腹は代えられないということで、週5便出ているのを週3便にしようかなども検討して、もう1度地域の業者さんに見積もりを出したらどうかということ、させていただいた訳になります。金額的には、今お願いしている金額は僕は本当に最低だと思いましたが、どうしても運賃収入が見込めないということでさせていただいたら、キタモリが現在お願いしているところよりも少し安くございましたので、この金額でいくと、何とか週5便今まで通りの運行で、いけそうだということでしたので、協議会の役員会で決定させていただきました。名張市の指導の下で色々と準備中です。来年4月1日から新体制でしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。何としてでも、週3便ということも考えましたが、現在13人くらいの方ですが、曜日を間違えて乗る方や困る方もいると思っておりますので、何とか現行のルート、時間体制で持続できないかというかたちでこういうふうに致したわけですので、皆様方よろしく願いいたします。

会長 この件については、公共交通会議での検討事項になると思いますが、皆さんの方でご質問等ございましたら今の時点で答えられる範囲でしたら、回答できればと思いますが、いかがでしょうか。こういった件、皆さんの中でも検討される中で、また相談したり聞きたいなということがありましたら、直接ほっとバスさんか、市の方に相談していただければと思います。この件については以上で、名張市地域公共交通に関する市民アンケート調査結果について事務局から説明をお願いします。

- ・名張市地域公共交通に関する市民アンケート調査結果について

(事務局より資料を基に説明)

会長 これを資料として出すのは皆さんにとって初めてですか。

事務局 そうですね。

会長 今すぐは無理だと思うので、皆さんこれを見ていただいて参考にいただければと思います。この中で地域公共交通について、アンケートの答えの中では必要だという、維持してほしいという意見にはなっているかなと思います。それぞれの運営協議会の皆さんが努力されていることを今後も引き続いて利便性について、なかなか難しい部分はありますが、努力していくところになるのかなと思います。この調査をもとに、今後はどうなりますか。

事務局 今後については、市民アンケート、バスの利用者アンケートの結果や分析を通じて課題等を洗い出し、今後改善すべき点などを公共交通会議の中で、どういう取り組みが必要なのかを

検討し、計画の中に盛り込んでいきます。

会 長 それにあたっては、また運営協議会の意見も…。

事務局 はい。こういった連携協議会の場などを通じて、各事業者、運営協議会のご意見もいただく予定です。

会 長 ということですので、時間を見つけてまた見ていただいて今後の運営に生かしていただければと思います。アンケート調査結果については以上です。その他でご質問等はございますか。特に無いようですので、それでは今日の第3回名張市地域公共交通連携協議会は終了とさせていただきます。ありがとうございました。